番組

〈開演 午後一時〉

御挨拶　朝倉 俊樹

ミニ講座　馬野 正基

能（喜多流）

枕慈童

シテ（慈童）友枝 昭世

ワキ（勅使）殿田 謙吉

ワキツレ（従臣）大日方 寛

ワキツレ（従臣）梅村 昌功

後見　香川 靖嗣

後見　中村 邦生

大鼓　國川 純　太鼓　観世 元伯

小鼓　曽和 正博　笛　松田 弘之

地謡　谷 友矩　友枝 雄人

粟谷 充雄　粟谷 明生

内田 成信　粟谷 能夫

粟谷 浩之　長島 茂

狂言（和泉流）

文荷

シテ（太郎冠者）野村 万作

アド（主）石田 幸雄

アド（次郎冠者）深田 博治

後見　中村 修一

能　枕慈童（まくらじどう）

魏の文帝に仕える大臣が中国の酈県山の麓に薬水の水源があるので、その水上を見て参れと宣旨を受け山へ入ります。すると山奥に一軒の庵があり、中から美しい慈童が現れます。勅使も慈童もお互いに山奥にいることが不思議なので化生の者と怪しむのですが、慈童は周の時代の穆王に仕えていたと名乗ります。しかし周の時代は既に数代前の話で七〇〇年も前であることに勅使はさらに怪しみます。そこで慈童は皇帝から賜った枕があるといって見せます。実は皇帝の枕をまたいでしまった罪でこの山に流されてしまったのだが、皇帝の恵で枕に法華経の妙文を記したものであり、菊の葉にうつして流れに浮かべると葉から滴るしずくが不老不死の薬となり、それによって自分が七〇〇年も生き延びていると話し慈童は勅使の前で舞を舞い、菊水を勅使に捧げ、そのまま庵に戻っていきました。

狂言　文荷（ふみにない）

主人は太郎冠者と次郎冠者の二人の家来を呼び出し、思いを寄せる千満殿という小人（少年）に宛てた文を届けるように言いつけます。奥方に叱られると言っても主人は聞き入れないので、しびしぶ出かけた二人は、文を互いに

粟谷　浩之　長島　茂

狂言（和泉流）

文荷

シテ（太郎冠者）野村　万作

アド（主）石田　幸雄
アド（次郎冠者）深田　博治
後見　中村　修一

――休憩　二十分――

〈三時五十五分頃〉

仕舞（宝生流）

嵐山

宝生　和英

地謡
大友　順
武田　孝史
髙橋　亘
小倉伸二郎

仕舞（金剛流）

半蔀（クセ）

金剛　永謹

地謡
工藤　寛
山田　純夫
宇髙　通成
坂本立津朗

仕舞（金春流）

天鼓

金春　安明

地謡
山中　一馬
本田　光洋
辻井　八郎

ると話し慈童は勅使の前で舞を舞い、菊水を勅使に捧げ、そのまま庵に戻っていきました。

狂言　文荷（ふみになう）

主人は太郎冠者と次郎冠者の二人の家来を呼び出し、思いを寄せる千満殿という小人（少年）に宛てた文を届けるように言いつけます。奥方に叱られると言っても主人は聞き入れないので、しぶしぶ出かけた二人は、文を互いに押し付け合います。そのうちに二人して持つ方法を思いつきますが、余りに重い文だと不審がり、中身を盗み読んでしまいます。

仕舞　嵐山（あらしやま）

大和の国吉野から都の西、嵐山に移植した桜の様子を見てくるようにとの勅命を受けた帝の臣下は、そこで花守の老夫婦に出会います。老夫婦は木守の神、勝手の神により桜が美しく咲くと語り、自分達こそがその化身であると語り、姿を消します。

やがて夜になり男神・女神として二神が現れて舞を舞い、蔵王権現も出現し春の盛りを寿ぐのでした。

仕舞では、蔵王権現が花に戯れ、梢にかけて光輝く春の盛りを力強く舞う場面をお見せします。

仕舞　半蔀（はしとみ）　クセ

夏の終わり、都紫野雲林院で花を供養する僧の前に、夕顔の花を立てる女性が現れ五条辺りにおいでなさいと言って姿を消

半蔀（クセ）

金剛　永謹

地謡　山田　純夫
宇高　通成
坂本立津朗

仕舞（金春流）

天鼓

金春　安明

地謡　山中　一馬
本田　光洋
辻井　八郎
山井　綱雄

〈四時十五分頃〉

能（観世流）

子方（義経）武田　章志
ツレ（同山）武田　友志
ツレ（同山）坂口　貴信
ツレ（同山）浅見　重好
ツレ（同山）藤波　重彦
ツレ（同山）角　幸二郎
ツレ（同山）清水　義也
ツレ（同山）藤波　重孝
ツレ（同山）武田　尚浩
ツレ（同山）山階彌右衛門
シテ（弁慶）観世　清和

安宅

勧進帳
瀧流之伝

ワキ（富樫）宝生　欣哉
アイ（太刀持）山本　則孝
アイ（強力）山本泰太郎

大鼓　亀井　忠雄
小鼓　大倉源次郎
笛　一噌　庸二
上田　公威
川口　晃平
山崎　正道

王権現も出現し春の盛りを寿ぐのでした。

仕舞では、蔵王権現が花に戯れ、梢にかけて光輝く春の盛りを力強く舞う場面をお見せします。

仕舞　半蔀（クセ）

夏の終わり、都紫野雲林院で花を供養する僧の前に、夕顔の花を立てる女性が現れ五条辺りにおいでなさいと言って姿を消します。仕舞は、その後、能の後半の中心的場面で、光源氏と夕顔の君が垣根の花を仲立ちとして出会い、契りを結んだことが、夕顔の立場から喜びをもって回想的写実的に描かれます。

仕舞　天鼓

所は中国、天より鼓が降り体内に入る夢を見た夫婦に生まれた子天鼓は、妙音を奏でる鼓を愛するあまり帝の命令を拒み、呂水に沈められます。父の打つ鼓の音に哀れを感じた帝は、天鼓の手向けの法要を行うと、天鼓の亡霊が現れ、鼓を打ち鳴らし舞を舞います。仕舞では天鼓の亡霊の喜びの舞を演じます。

能　安宅（勧進帳　瀧流之伝）

平家滅亡の後、義経一行は頼朝の追及を逃れるため、山伏姿となり、都を落ちて奥州へ下る途次、加賀国・安宅の関にさしかかります。弁慶が東大寺再建の寄進を募る山伏だと名乗ると、関守の富樫は怪しみ、勧進帳を読めと迫りま

平成29年7月21日(金)
開場／午後1時 開演／午後2時
会場 国立能楽堂
主催／公益社団法人能楽協会 東京支部

【チケット料金】(税込) 全席指定

- S席・・・10,000円
- A席・・・・8,000円
- B席・・・・6,000円
- C席・・・・5,000円
- D席・・・・4,000円 〔普及席〕

※各座席区分は前ページ座席表をご参照下さい。
※本公演は未就学児のご入場をご遠慮頂いております。

【チケット発売開始日】

4月21日(金) 午前10時より

【チケット取り扱い】 ※販売は下記に限り承ります。

◆ 電　話
チケットスペース ▶ 03-3234-9999 (有人対応)

◆ インターネット
e+イープラス ▶ http://eplus.jp/ (PC・携帯共通)

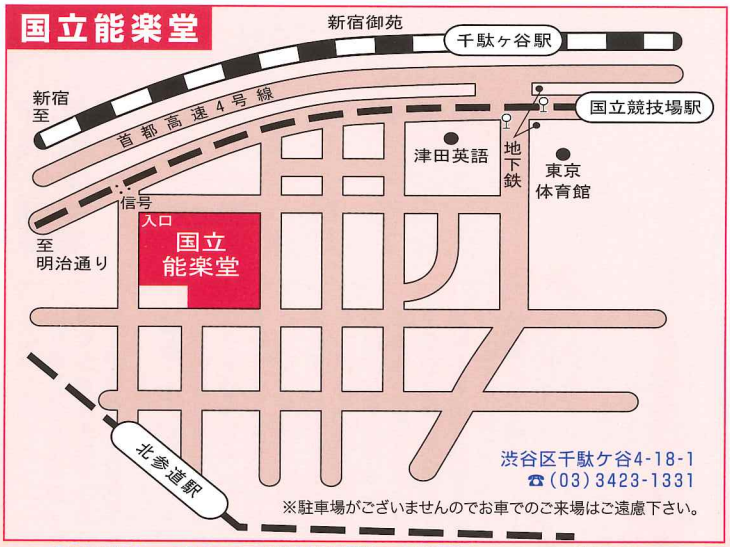
◆ 店　頭
国立能楽堂 ▶ 窓口販売
e+イープラス ▶ ファミリーマート全国各店舗 店内 famiポート

【前売チケット発売期間】 4月21日(金)～7月18日(火)

◎チケットスペースのみ7月17日(月)に終了致します。
◎前売チケットは販売期間終了前に完売することもございます。予めご了承下さい。

【当日券】 国立能楽堂ロビー受付にて 午後1時より 販売開始

◎残席がある場合のみ販売致します。



【最寄駅】 JR(中央・総武線)千駄ケ谷駅下車…… 徒歩5分
都営地下鉄(大江戸線)国立競技場駅下車… 徒歩5分
東京メトロ副都心線 北参道駅下車…… 徒歩7分

◆ 公演に関するお問合せ ◆ ※チケット販売受付は致しませんので予めご了承下さい。
公益社団法人能楽協会 東京支部 ☎03-5925-3871 ／ http://www.nohgaku.or.jp/

御挨拶

納涼能は昭和五十三年、オフィス街の本格的な演能公演として日比谷公会堂で産声を上げました。その後平成十年より、都内の主な能楽堂で能楽鑑賞始めの一歩を踏み入れて頂く様になりまして、今回で第四十回を迎えます。

これもひとえに皆様の御支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

今回も東京支部ならではの企画で、シテ方五流総出演、豪華な曲目を用意しており能楽ファン必見のプログラムです。

夏の暑い時期ですが能楽堂にお運び頂き、御高覧賜ります様お願い申し上げます。

東京支部長　朝倉　俊樹

して二神が現れて舞を舞い、蔵

席表（舞台平面図）

※全指定席となります。

掛り	④三の松
座	⑧鏡　板
謡座	⑫シテ柱
付柱	⑯白　州

能楽堂とは

能を上演する専用の舞台を能舞台といい、四本の柱に囲まれた三間（約6m）四方の本舞台を中心として、右側に地謡座、正面奥に後座と松の描かれた